

「学び」について

校長 牧 健一

令和3年1月26日、中央教育審議会で「令和の日本型学校教育」の構築を目指した答申がまとめられました。令和4年になり、全国の小学校でこの実現に向けた教育活動が行われています。答申には次のようなことが書かれています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

そのために「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する。

一昔前は、学習者が授業者から受動的に情報を伝達され、行動に変容が起こることを「学び」と捉えていました。いわゆる教授型（教え込み）の授業がそれにあたり、古来、学校教育の典型的なスタイルといわれていました。

ところが、グローバル化や少子高齢化、高度な情報化が進む社会では、人の脳に記憶された情報量を競うだけの学習は、次第に意味を失いつつあります（情報は検索すればわかりますし、競争相手も少なくなってきましたものね）。それよりも、様々な社会的変化に対応しながら自ら学ぶ力や、多様な人々と協働し、新しい価値観やイノベーションをもたらす力の方が、持続可能な社会を創るためにも、より重要です。「主体的・対話的で深い学び」はその力を身に付けるための方策の一つといえるかもしれません。

学校段階では、具体的にどのように進めていけばいいのでしょうか。

川上小学校では、学校教育目標に「自ら学び共に生きる」を掲げています。

日々の実践レベルでは、「めあて」と「まとめ」を意識した問題解決的な学習の授業、その学びを支える基盤的なツールとしてのICTの活用など、学校の全職員がそれぞれの立場で真摯に取り組んでいます。また、保護者の皆様による読み聞かせや地域の方々による食農指導など、校区内で、広義での協働的な学びの場は、本当に豊かに機能しているように思えます。

学校を取り巻く大人が“子供のために”という思いを胸に、できることに根強く取り組むことは教育の不易の部分です。そして、ほかにできることがないか、私たち教員は最新の知見に関する研鑽を深める必要があります。



時間を大切にしよう
歯を大切にしよう

思い出つかった 修学旅行（5/23-24） 春の一日遠足（5/25）



5・6年生は、熊本市内の自主研修やグリーンランドに、1泊2日の三校合同修学旅行に行ってきました。事前に調べて、みんなで決めた熊本ラーメンも食べました。

1～4年生は、JRや市電に乗って、鹿児島市内の博物館見学や中央公園に行ってきました。



中央公園では、ほとんどのお子さんが水遊びを楽しみました。



コロナ禍で変更もありえます。
週報などでご確認ください。

- 2日（木） 粃まき（農業体験）
- 3日（金） 市来小との交流学習
校内スケッチ大会
- 4日（土） チャレンジ教室
- 8日（水） プール掃除（6校時）
市P連単P会長会
- 17日（金） プール開き

- 19日（日） カヌー教室
- 22日（水） 田植え（農業体験）予定
- 23日（木） 移動図書
- 25日（土） 市P連ミニバレー大会（未定）
- 29日（水） 租税教室（6年）
小中一貫教育乗り入れ授業（5・6年）



実りの秋をめざして

～川上小の食農教育～



経験豊かな地域の方が子どもたちの指導にきてくださいました。



マルチな6年生が1年生の畑のお手伝いをしてくれました。



外国語指導の先生も1年生のお手伝いをしてくださいました。

五月二十七日（金）、四校時にみんなで芋の苗を植えました。指導には、青パトもお世話になっていて地域の方がきてくださいました。また、ALITのイサン先生も参加してくださいました。和気藹々とした活動ができました。収穫が楽しみです。

5月の川上ブランド

未来を生きる力を育む

● 英語教育

国際社会で他者と協働できる子供



イサン先生と一緒に



放課後イングリッシュタイム

● ICT活用

Society5.0時代に対応できる子供



シンキングツールで発想を広げる



AIドリルをつかった学習

● 読書指導

豊かな心、自ら学ぶ力をもつ子供



スクリーンに絵本が映ります



地域や保護者の方の読み聞かせ

南日本新聞子供のうたのコーナーに本校児童の詩が紹介されました。

5月12日（木） 5年生福田くん 「友だち」

4月27日（水） 6年生藤井さん 「ウコッケイ」

